

アリスの飛行船

AIRSHIP OF



Since 2001,7,11

No.67



Alice

40th Birthday, 2011.12.25

アリスの飛行船

AIRSHIP OF
ALICE
No.67

CONTENTS

page.4 to 13

アリスリターンズ、そしてソロ活動

18年振りの飛行船によるベーやん単独インタビュー
忙しい仕事の合間に時間を取っていただき、アリスリターンズのツアーの思い出、そしてソロ活動に戻ってのお話を伺ってきました。



page.14 to 17



きんちゃんが新グループ、HUKUROH結成

ゲスト出演したライブでコンガにトークに大活躍
きんちゃんが元シグナルの住出勝則さんと滝ともはるさんと新グループ「HUKUROH」を結成。目黒ブルースアレイでのライブを突撃レポートしました。

page.18 to 19

飛行船ホームページが100万アクセス突破

アリスのメンバーからもメッセージをいただきましたよ
2001年7月11日にホームページを開設してから10年で、アクセス数が100万を突破しました。船員のみなさんのおかげです。ありがとうございます。



ついに実現 18年振りにアリスの飛行船単独インタビュー ベーやんが語るアリスリターンズ、そしてソロ活動



39ツアーにテレビ出演、忙しい時間を割いて、アリスの飛行船のインタビューに応じていただきました。

アリスの飛行船の会報でベーやんのインタビューが行われたのは第61号、1993年のこと。

じつに18年振りとなったインタビューは都内の某所で、ベーやんの仕事の合間に行われました。今回のインタビューでは2009年のアリスツアーとその後のソロ活動という、2つの主題でお話をうかがってきました。

まずは神田共立講堂でのリターンズ前夜祭のお話

まずは2009年のアリスツアーですが、これはまず7月20日の神田共立講堂から始まって。。。かなり特別なステージだったと思います。

ベーやん

そうですね。

あれはお願いして。。。聞いたら、あれは部外には貸し出さないということ。

大学の施設でしたよね。

ベーやん

そうなんです。

部外に貸し出すと、例えば営利目的だったりとか、そういうことに

なっちゃうんで、貸し出しはしないということだったんです。

一時は（コンサートの）メッカでねえ。。。僕らの頃は普通にやってきましたけど。

神田共立講堂でやろうと言うのは誰から出てきた話なんですか？

ベーやん

これはもう全員で。

まあ、一番。。。僕らの時代に馴染み深いところということで。ある種のフォークの殿堂というか、エポック的な所というのは共立講堂なんですよ。

それで僕らも、あの年代に頑張ったあそこでやろうという話になったんです。



確かに、学生向けだから椅子とか狭いですよね。
今考えるとね。

そうでしたね。トイレもいかにも学校って感じでしたし。

ベーやん

そうそうそうそう。

女性の方は特に大変だったみたいですね。

なんせ、やっぱり造りが古くて。。。中はあまりいじってなくてね。

リニューアルじゃないけど、補修はしてあるみたいですけど、外観とかそのまんまで。

看板の字とかもそのまま残してあるし。

渋谷公会堂がC.C.Lemonになっちゃったり、いろいろ変わったけど、あそこは変わらない。

他のホールと違った思い出とかありましたか？

入った瞬間に感じたものとか。

ベーやん

関西だと神戸の国際会館とか思い出深いところだけど、東京だとねえ。。。どうしても神田公立講堂ですよええ。

28年ぶりの全国ツアーの前夜祭としては、ちょうど良い、自分たちのヒストリーじゃないけど。。。それを物語るのにはふさわしい場所じゃないかなと思いますね。

あそこで（東京で）初めてのワンマンのリサイタルをやってね。



あの当日の事はすごく良く憶えているんですよ。

楽屋口の中階段のあたりから。。

表からずう〜っと裏口を通過って、みんな列になっているんですよ。その間をギター持って、「すみませ〜ん」とかって言いながら通っていくんですよ(笑)。

「何なんだろう今日は？」って、そんなの見たことないから。。

「うちだよ、うち」なんて言われて、「すごい入ってるねえ」って。まあ、その日は満杯でしたけどね。そういう思い出が重なり合って、メンバー3人もすごい思い出じゃないですかねえ。

今日、このインタビューの前に神田公立講堂の前夜祭をDVDで観てからきたんですけど。

3人がほんとうにうれしそうにしてるなっていう印象が強く。。今回演奏していて、楽しかったですか？

ベーやん

あ〜、もう楽しかったです。

最初はね、体力的にというか。。。精神的には大丈夫なんですけどね。

こんなステージできんのかなあ〜と思って。。

あんなにこうメドレーで、ほぼあの頃と同じキーでやるってのいうのは。

曲も割と初期の頃の曲が多かったですよね。

ベーやん

そうですねえ。ほんとに初期の頃に徹してやろうと。。

最初の頃にファンになってくれた人にはすごく懐かしかったんじゃないかな。

そういう選曲でした。

3人だけで演奏してみて、いかがでしたか？

ベーやん

みんな、歳をとったなあっていうか。。

すごく良い思い出がよみがえってきました。



勝手な話ですけど、私たち飛行船としては、「アリスの飛行船」を歌ってくれたのがうれしかった。別に私たちに絡んでいるんじゃないだろうなと思いつつも、やっぱりうれしかったです。

ベーやん

あ～、やっぱりテーマソングですもんね(笑)。
あれは楽しかったですよね。
ああいうのばかりでもよかった。

アリスのヒット前と後。。。それぞれのステージができたなら

売れる前から知っている人と売れてからを知っている人がいるから、日ごとに分けられるといいのになってきんちゃんと話をしたことがあったんですよ。今日は古いの、明日は新しいのって。
きんちゃんは、「それって練習できないよぉ」って言っていましたが。。。

ベーやん

確かにリハが大変ですねえ。。。まあ、頭を切り替えればいいんですけどねえ。
OLD月間とかNEW月間とか、月割りぐらいにしてくれると、できるかなあ。。

おもしろいかもしれませんね。

でも、ほんとにいっぱい愛してくれてうれしいですよ。

蓋を開けるまで心配でしたけど。わあ～、アリスってすごいなあって思いましたよ(笑)。

自分たちでも半信半疑でしたからね。

そんなにやるのも大変だけど、そんなに人来るのかなあって。

ツアーで演奏する曲はどういう風に決めていったんですか？

ベーやん

まずはみんなが知っている、やってほしそうな曲とかを並べていくんですけど。。。

そういう曲でもうだいたい埋まっちゃうんですよ。

これははずせないなってあるんで。その間にひょっと、自分たちの個人的な思い入れだったりとか、そういうマニアックなやつも入れてみてね。

ツアーの2部はヒット曲ばかりでしたね。

ベーやん

そうですねえ。今回は1部2部とあったんで、その辺で新旧を入れ替えようって感じてしたよね。

他にこれを演奏してみたかったという曲はあるんですか？

ベーやん

いや。。。これと言ってなかった。ほとんど演奏してない曲の方が多い。。。そういうのをやっても、マニアックすぎちゃうし。それもどうだかなあって。



東京ドームで歌った「いい日旅立ち」「夏の終わりに」

東京ドームでは「夏の終わりに」を歌われましたよね。

ベーやん

あ～、センターステージで歌ったのね。

あれは3人で演奏した後に僕のソロコーナーになるんだけど、チンペイさんときんちゃんが、いったん退場するんだよね。

その間を上手くつないでくれてって舞台監督に言われたんだけど、ドームだと大きいからその時間が長いんですよ。

当然、みんなの注意もそれちゃうから、「こりゃあ、喋ってもダメだろうなあ」って思って、それで「いい日旅立ち」と「夏の終わりに」を歌って二人を送ろうと考えたんですよ。

すごく良いアイデアでした。

ベーやん

うん、こう言うことは全部僕にまわされるんですよ。

みんなから「なんかやるだろう」って思われているんだよね(笑)。

メンバーとバックメンバー 良いグルーブ感ができたね

バックのメンバーはいかがでしたか？

すごく楽しそうに演奏されていましたが。

ベーやん

そうそう。それが本来ね。。。バンドが持つグルーブ感というか、ひとつのグループのようにまとまってくればいいなと思っていたんですけど、予想以上に頑張ってくれて。

ステージ上で演奏しているメンバーが楽しそうで、それが会場全体に伝わっていった。

終わった後に、みんなが「楽しそうに演奏していた良かったね」って言っていました。

ベーやん

まあ、瀬戸谷さんは別として、他はみんな息子みたいな年代なんですよ。

僕らも息子をみるような目で、どうしても触れ合っちゃうし。

彼らは彼らで、「おとうさん達のためにがんばらなきゃ」っていう、違う力がね(笑)。

いつもの彼らのステージとは、本当は違うと思うんですよ。

ほんとに楽しそうにやっていたから。

メンバー同士も見つめあっていませんでしたか？

ベーやん

そうですねえ。

けっこう、そうしないと。。。ちんぺいさんは特に目回しという

か。。。してるでしょ。

あの人、昔からの癖なんですよ。

ギターを抱えてこう、右左って見て回るの(笑)。

僕は真正面が好きなんですよ。

先日、2001年の神戸のDVDを観たんですけど、全然違うんですよ。

今回の方が楽しそうな感じがしました。





ベーやん
あ～、でてる？

2001年の最後の大阪城ホールでも、あんまりちんぺいさんとベーやんで顔を見合わせるというシーンはなかったんですよ。

ベーやん
2001年の時は本数があまりなかったんですよ。
それに大きい所ばかりでやっていたんで、みんなそのことに必至ですね。
今回はちゃんとツアーを組まれていたんで、違いますよね。

9月のステージなんて16回もあったから、ほとんど毎日一緒にいた感じですよ？

ベーやん
そう、あれはけっこうきつい時だったですね。

7月、8月は土日にステージが集中していたけど、9月は平日も加わって、2日に1回ペースですごいスケジュールでしたね。

ベーやん
9月はすごかった。
でも、自分一人だと乗り切るのに、精神的にしんどいんだけど。。。まあ、みんなが同じ苦しさだろうと思うと、なんか連帯感がでてくるよね。

コンサートが終わった後って、どうされていたんですか？

ベーやん
みんな。。。散り散りバラバラだったねえ。
終わる時間も遅かったんで、それぞれ部屋で食事したりとか。。。僕とちんぺいさんで食べる時もあれば、きんちゃんと食べる時もあったし。
昔の若い時代のように毎回打ち上げやっていたら、次の日声がでないからね。
みんな、それを知っているから明日のために休んでおこうと。
まあ、みんなプロになったんだなあって思いましたよ。
昔はおかまいなく行ってましたから。体力ももたなかったけど、それでも行ってたね。
でも、今回のツアーではスタッフが乗っていくバスに同乗して移動した時もあったんですよ。
島根から広島にはいたり、四国は全部、全員そろってバスで移動していましたね。

開演前にアナウンスを入れるようになったのは、長野あたりからでしたか？

ベーやん
いや～、憶えてないですねえ。
早めに舞台袖に着いて、なんとなく盛り上げようかなあって思ってやってみただけだね。

神戸の時にちょうど、ベーやんが60歳になられて、サプライズ企画がありましたか？。。

ベーやん
うん、びっくりしたね。びっくりして、それから喜びが湧いてきて。ちんぺいさんの合図で出すようになっていて、コンサートの間はみんな（プラカードを）隠していたんだね。
一番前の人なんかどうやって隠してたんだろうって思ったけど、ステージの段のところに立てかけていたんだって。よく考えるよねえ。
ほんと、楽しかったよ。



アリスのツアーを終えて、 ソロ活動で感じたこと

アリスのツアーを終えて、一人だけの活動に戻られたわけですが、それ以前と変わったことってありますか？

ベーやん

いや、もうソロの方が長くやっていますからね。ちんぺいさんもそうなんだけど。それはもう問題ないですけどね。ないけど。。。やっぱり一人でやっているステージの方がはるかにしんどいなと思いましたね。自分で根回ししていくもんだから。アリスだとほっぽらかしておけばね、必ず(ちんぺいさんが)しゃべってくれるじゃないですか(笑)。自分がしなくてもしてくれると。してくれるし、ちんぺいさんがなんかやっていたら、こっちも「あ〜どうもお」とかって言ってこっちで割り込んでいけばいいと(笑)。阿吽の呼吸がありますよねえ。一人だと何か一服したいなあと思っても誰もやってくれないから、自分で一服タイムを作らないとね。まあ、両方楽しめるからね。

アリスのステージでもベーやんの語りがおもしろかったんですが、ソロの語りもおもしろいですね。ライブを観に行った時はいつも感心しているんですが、そういう語りはいつの時点で考えているんですか？

ベーやん

そうですねえ、選曲で。。。やっぱりこんな話がいいだろうなって、おぼろげには決めてますよ。それをもっと短くしようとか、あそここのとこだけ抜粋しようとか考えますけど。全体的には出たとこ勝負ですね、いつも(笑)。

昨年のことになりますが、水戸黄門に出演されていましたが。。

ベーやん

あ〜(笑)、出たよ。うん。水戸黄門って毎回ゲスト主役みたいな人が出ているんだけど、そこで歌手の堀内孝雄が出たら面白いんじゃないかって。以前、はぐれ刑事にも何回か出ていて、それを水戸黄門のプロデューサーが見ていてくれて、「堀内さんは演技もお上手だから」なって声をかけてくれてね(笑)。それで出演することになったんですよ。ほんとはお侍さんの役がよかったんだけどねえ。お侍さんはヒゲをはやしちやいけないらしくて。ドラマの役のためにこのヒゲを剃る訳にいかないからねえ。それで南瓜売りになっちゃったんですよ。でも、戦国武将はヒゲを生やしているんだよなあ。そうですねえ。信長とか生やしますよね。

ベーやん

うん、武将はだいたい生やしてる。その時は「あ〜そうですか」って納得したけど、考えてみたらいっぱいいるんだよね(笑)。

じゃあ、もっと偉いお侍さんの役をやらせてくれって言えばよかったんですね。

ベーやん

そうだよ。ほんとだよ(笑)。役者をするのは楽しいですか？

ベーやん

うん、僕は嫌いじゃないですね。なんせ自分にない、想像しなきゃできないからね。想像が面白いんですよ。どうすればこの人になれるんだろうって。

じゃあ、機会があればこの先も？

ベーやん

う〜ん、暇な時にね(笑)。あれは忙しい時だったんですよ。

ドラマの撮影って時間を取られますよね。

ベーやん

そうですね、あれで4日間かあ。とびとびで4日間。山奥のロケもあってね。太秦の撮影所出発で兵庫の山奥とか。朝早くて辛いんですよ。きんちゃんにはできないね。まず、こない(笑)。



こない。。。 (笑)

ベーやん

自毛で浪人役とかできそうだけどね(笑)。

新しい試み。弾き語り ライブハウス公演

「39ツアー」は2月19日の練馬、3月6日の習志野と行われましたが、その後の予定はどうなっているんですか？

ベーやん

「39ツアー」はこれでもう終わりなんですよ。

もう次の構想にはいってね。次は、僕がずっとギターを弾いて、アコースティックライブにしようかなって考えていて。。。

六本木のスイートベイジルSTB 139って所で、5月14日と15日にやる予定です。

そこはテーブルと椅子があって、食事をしながら、お酒を飲みながらライブを楽しめるんですよ。

どれぐらいの人数がはいれるんですか？

ベーやん

250人ぐらいのところで、僕も何度かゲストで出たことがあるんだけど、凄く良いところだね。みんな、うちうちな感じが。。。 そんな雰囲気があるんですよ。

250人ぐらいだと、ほんとにすぐ近くにベーやんがいるって感じですね。

ベーやん

そういうスタイルをこれから多くしていこうかなと。

1500人のキャパで遠くから見るよりも、もっとフランクな感じで、すぐそこで歌っているって感じにしてね。

アコースティックライブってことは、編成もベーやん+ピアノぐらいで。。。

ベーやん

いや、もう少し。。。 ピアノ、ギター、シンセで、プラス3人ぐらいになるかな。

まだ中身はまだ何も決まっていないので、これからしっかり考えていきますよ。

楽しい、嬉しいライブになりそうですね。期待してます。



忙しい仕事の合間でのインタビューでしたが、楽しそうに感じてくれたベーやんでした。

ギター弾き語りで行われるSTB 139でのコンサートは、アリスファンにとってはきっと大満足のステージになると思います。

このステージが成功して、これからのベーやんの新たな演奏スタイルとなって、続けてもらえると思います。

※このインタビューは2011年春に行われました。公開が遅れてしまい、申し訳ありません。



堀内孝雄・アコースティックライブ

in 六本木STB139・スイートベイジル



ベーやんがギターを弾き、歌う。アリスファンにはたまらないステージを突撃取材しました。

2011年5月14日土曜日、六本木STB139、ベーやんのアコースティックライブ。

ソロのコンサートは何度か観に行っていますが、今回のライブは違います。

なんとってアコースティックライブですから。

ギターを持って弾き語りするベーやんがたっぷり観られるのです。

ワクワクしながら六本木の駅を降り、駅からすぐのSTB139へ。会場前には同じ気持ちのベーやんファンが列を作っていました。

入り口にはちゃんとライブを告知するポスターが出ています。

会場にはいり、友人達とビールで乾杯し、軽く食事をしながら開演を待ちます。

オフ会のような雰囲気、これから始まるライブへの期待を語りあいました。

そんな時間もあっという間に過ぎて、いよいよ開演の時間。

暗転してサポートメンバーの演奏が始まり、ベーやんの登場です。前列のファンと握手した後で歌い始めたのが『L.A. NITE』。

いきなりソロのアルバムにしか収録されていない曲です。

期待を裏切らない選曲とベーやんの歌声に惹き込まれていきます。

1曲歌い終わった後で、「こういうライブをやってみたかった」と語るベーやん。我々ファンもこういうライブを楽しみにしていたんですよ。

そして、ステージに置いてあったギターを手にとり、「オッケー」と声をあげた後に『あの日のままで』のイントロが流れる。

♪時が過ぎても、あの日のままの会場にいる全員の中に、それぞれの”あの日”が蘇っていたんじゃないでしょうか。

「76年、あの日のままで。そして、80年はこんな曲」と言って演奏されたのが『南回帰線』。

4月に目黒のライブハウスで滝ともはるさんが歌ったのを聴いたばかりで、それぞれの『南回帰線』を1カ月の間に聴いてしまいました。次は是非お二人で一緒に歌っていただきたいものです。

曲が終わると拍手の音が消えぬうちに何やら動物の鳴き声。。

「めえ〜」「こけこっこお〜」

次の曲がピンと来た方も多かったです。。そう『羊飼いの詩』。

♪ハイリ〜、ハ〜イリッホ〜 みんなで大合唱です。





本当は自分のソロ曲として出す予定だったという『紫陽花』。

八王子市民会館裏の土手で撮影したジャケットには霊が映っていると、ちんぺいさんがラジオで話をしたら売上げが上がったというエピソードを語ってくれました。イントロのピアノが終わった後、ベーヤンがギターを弾きながら歌い始めようとした瞬間、「あっ、カポを忘れた」と言って演奏を中断。「じゃあ、歌のところから」って、いきなり歌い始めましたが、ベーヤンの歌声にすぐに惹きこまれてしまいました。しみじみと良い曲ですね。

そして、自分の名前がクレジットされた最初のレコードだからと仏壇にお供えした『帰り道』。スリーフィンガーで奏でるイントロの後にベーヤンの伸びやかな声が響きます。

ピアノのイントロにベーヤンのギターがメロディーをのせて『5年目の手紙』。ちんぺいさんの歌詞とベーヤンの曲が作り出す世界に酔いしれています。

2009年のツアーを振り返り、ちんぺいさんのMCが長いから、きんちゃんはステージ袖でサンドウィッチを食べに行くんだけど、僕は一応フロントにいるんで動けないんですよなんてエピソードを語ってくれました。

今ではアリスのステージでも、ベーヤンもちんぺいさんと同じぐらい、ひょっとするとちんぺいさんよりも長くMCをしているかもしれません。

これもソロの活動で頑張ってきたからだよなと思います。そのおかげで2009年のツアーがあり、そして次のアリスを期待できる環境があるのです。

一部も終盤となり演奏されたのが、『遠くで汽笛を聞きながら』。「この曲ほどちんぺいさんの歌詞に注文をつけたものはない」と語るベーヤン。

ちんぺいさんから「だったら自分で作ればいいじゃない」と言われても、「作れないから言ってるんですってば」と応えたそうです。そのこだわりがこれだけの名曲を作ったんですね。

そして、一部の終わりは『青春追えば』

一部で既に観客は大満足です。30分の休憩では、みんな笑顔でいっぱいでした。

『サマー・ワインに酔いしれて』で二部がスタート。アリスが活動停止した翌年に出したアルバム「DAY BREAK」からの選曲です。

このライブの最初にベーヤンが語っていた「今日はデビューからの年代を辿る」という言葉どおりにアリスの時代からソロ活動の時代へと流れていきました。

「はぐれ刑事から2曲」ということで『ガキの頃のように』と『竹とんぼ』。

この『ガキの頃のように』は当初同じ事務所の田中義剛さんのために書いた曲だけど、義剛さんが歌えないと言ってきたので、「はぐれ刑事」の主題歌として自分で歌ったのだそうです。

ベーヤンがMCで「堀内孝雄は演歌の方に行っちゃったって言う人がいるけど、自分は変わっていない。ずっと変わっていない」。

アリスからのファンに伝えたい言葉なんだと思いました。

ベーヤンの曲が変わっていないのは、多くのアリスのファンはわかっているんだと思います。

ただ、ギターを弾いて歌っていないことが寂しいのです。

これはベーヤンだけじゃなく、ちんぺいさんに対しても同じじゃないかと思います。

そして、ソロのベーヤンを支えてくれた3人の作詞家、小椋佳さん、

荒木とよひささん、康珍化さんの曲を聴き比べてくださいと、『惜春会』『さよならは云わない』『涙を捨てる街』の3曲を続けて。それぞれの歌詞にそれぞれのメモディー。
すべてベーヤンの書いた曲だけど、やはりそれぞれの世界ができるのが面白いですね。

「みんなに対して、いい歌が歌ってこれたのかな?」、いつもそう思っているって語るベーヤン。
ファンを大事にしているベーヤンだから、本当にいつも自問自答しながら歌ってきたんでしょうね。

ピアノのイントロに続いて歌い始めた『愛しき日々』。
この曲は、演歌のベーヤンが好きな人にも、アリスを好きな人にも受け入れられる名曲だと思います。また、この曲が売れていなかったら、今のベーヤンはなかったし、アリスの復活もなかった。
そんなことを考えながら聴き惚れていました。

二部の最後の曲にはいる前にギターを手に取りながら、このギターはアリスの時代からずっと使っていると紹介してくれました。
そんなギターを弾きながら歌い始めたのが『時の流れに』。
♪人生はめぐりめぐり。。。この曲がラジオから流れていたあの頃を想いながら、サビの部分全員で歌いました。

いったん袖にはいりブルーのジャケットに着替えたベーヤンがアンコールに応じて再登場。
ニコニコと嬉しそうに観客を眺めながら、「なんだかほっとするね」と一言。
初めての試みだったアコースティックライブに手応えを感じたのかもかもしれませんね。

東北で震災があって、被災地に家族がいるファンからもらった手紙を紹介した後、自身も福島へ行って歌った事を語ってくれました。

震災の話の後で、「順番を逆にすればよかった」と言いながらも恒例のグッズ紹介。

個人的な話ですが。。。最近のベーヤングッズについているマークがお気に入りなんです。
既に一部終了後にいくつか購入済みでした。

新曲の『面影橋』でライブは締め括られましたが、ベーヤンが袖にはいっても拍手がいつまでも鳴りやみませんでした。

ベーヤンへの感謝の気持ちを込めて。

今回が初めてのアコースティックライブ。それも250人規模のライブハウスでのステージ。

先日、インタビューさせていただいた時には、「これからはこういう形式のライブをやっていきたい」と語っていました。

動員も良く、観客の盛り上がりも良かったこのライブ。

きっと、ベーヤンは「次もやろう」と思ってくれたはず。

次はもっともっとベーヤンソロの初期に歌っていた曲をもっと聴かせてくださいね。



面影橋 / 時の流れに

2011年4月27日発売

1999年のアルバム「青春のしっぽ」に収録されていた「おもかげ橋」をリアレンジして収録。

コンサートで歌われ、多くのファンに支持されてきましたが、ついにシングルカット。

カップリングは、アリスファン泣かせの「時の流れに」。

ラジオから流れていたギターのカムソングで、これに触発されてギターを始めた方も多いと思います。

「HUKUROH」ファーストライブ

住出勝則 + 矢沢透 + 滝ともはる 2011年10月9日、東京・目黒ブルースアレイ

住出勝則（すみでまさのり）。
シグナルのメンバーとしてアリス
と同じヤングジャパンに所属し、
デビュー曲「二十歳のめぐり逢い」
が大ヒットした。その後もベーヤ
んとケインズを結成したり、ちん
ぺいさんのバックでギターを演奏
したりと、アリスとは縁が深い。

滝ともはる（たきともはる）。
1979年から翌年にかけてベー
ヤんのソロコンサートツアーに同
行し、二人で歌った「南回帰線」が
大ヒットした。
この方もアリスとは縁が深い。

そんな二人が55歳にしてふた
たびめぐり逢い、意気統合してユ
ニットを結成し、4月19日に目
黒の「ブルースアレイ」でライブを
行なった。

その時にゲストミュージシャンと
して参加したのが、アリスの矢沢
透・きんちゃん。

滝さんのボーカルと住出さんのギ
ターに、きんちゃんのコンガが絡
んで心地よい音楽が生み出された
素晴らしいライブでした。

その後、7月には横浜のパラダイ
スカフェでライブが行われ、ここ
でもきんちゃんがゲストとして参
加していました。

そのライブのMCでは、住出さん
が「きんちゃんがたくさんお客さ
んを連れてきているけど、僕と滝
くんの二人が自立してやっていけ
るようになって、きちんと”きん
離れ”しないといけないんだ」な
んて言っていたので、あくまでも
きんちゃんはゲストなんだと思
っていました。

ところが、9月になってきんちゃ
んが正式に住出さんと滝さんのユ
ニット参加するという話が出てき
ました。

3人で結成したグループの名前は
“HUKUROH”。

その由来は、「不苦労で音楽を楽し
みたい」という気持ちからだとい
う説もありましたが、どうやら単
純に「鳥のフクロウ」からという説
が正しいようです。

そんな“HUKUROH”のファース
トライブが10月7日に大阪、9
日に東京で行われることが決まり
ました。

スポーツ新聞で取り上げられたり、
リハーサルの模様がYouTube
で公開され、きんちゃんの新曲
が用意されていると発表されるな
ど、ライブに向けて盛り上がり
てきました。

きんちゃんがアリス以外でバンド
を結成するのは、82年のBLE
ND以来、29年振りですから。

“HUKUROH”への期待はどんど
ん高まっていきます。

そして、東京でのライブ当日。
開演30分前に目黒の「ブルース
アレイ」に到着した。

ここは食事をしながらライブを楽し
む大人の空間。

軽くビールを飲みながら待ってい
ると、150人ほどの席は開演時
にはほぼ満席になった。



ステージを見ると中央にコンガがセティングされています。一番前の席から1mもないぐらいの場所です。私の席は後ろの方になりましたが、それでも武道館の前列目よりもきんちゃんに近い。。。こんなに近くできんちゃんのプレイが観られるなんて、それだけでドキドキしてきます。

照明がやや暗くなり、住出さんと滝さん、そしてきんちゃんが登場。コンガの前に座るきんちゃん。近いです。やっぱり近い。なんだか観る方も緊張してくる距離ですが、そんな中ではじまった1曲目は「下北 TOWN WOMAN」。ノリのいいブルースで、“♪下北沢にい〜”と歌い出すところを”♪東京お目黒にい〜”と歌った住出さん。最初からとばしてます。

そして2曲目は“CHANGE THE WORLD”。クラプトンに負けない住出さんのギタープレイ。そしてボーカル。住出さんの甘い歌声に、太くてマイルドな滝さんの歌声、ふたつの声が溶け合って、力強くもあり、優しくもある素敵なコーラスになります。

若い頃に同じ事務所で活動していた二人が30年もの時を経て再び出会い、一緒に音楽をやることを本当に楽しんでいるのが伝わってきます。

そんな二人のサウンドに「僕も一緒に楽しませてよ」ときんちゃんのコンガが加わってくる。ん〜、“HUKUROH”っていいグループだ。

3曲目はピリィジョエルの「素顔のままで」。東京だけで演奏された曲です。大阪ではこの曲の代わりに「浪漫」という滝さんの曲が演奏されました。

滝さんが「“HUKUROH”はメンバー全員が副業を持っております。。。」と紹介してくれました。滝さん自身は横浜の馬車道でパラダイス・カフェというライブバーを運営されています。

きんちゃんはアリスファンの聖地となっている六本木の AGATHA や、神保町の RimShot というギター専門店を運営されています。

そして、住出さんの副業はギタリスト。“HUKUROH”でもギターを弾いているじゃないと言われるかもしれませんが、住出さんの場合はただギターを弾くだけではないんです、

実はこの方、世界的に評価されているスーパーギタリストなんです。元シグナルでケインズやちんぺいさんのバックバンドでギター演奏をしてきた住出さんですが、オーストリアでの武者修行の末に「Masasumide」として、海外

でも有名なギタリストになりました。



そんな住出さんのギタープレイを生で、こんな目の前で披露してくれました。

曲は「INTO THE FIRE」。弦を弾く（ひく）だけでなく、弾く（はじく）、叩く、そしてボディまで叩く。まさに息をつく間もないぐらいに超絶プレイの連続です。パーカッシブでありながら、6本の弦をきれいに奏でる。演奏が終わった後に見せる住出さんの「ドヤ顔」がたまりません。こんなに凄い技巧派のギタリストなのに、お笑いの要素たっぷりなんです。

そんな住出さんが実にいきいきと次の曲を紹介してくれました、「GS特集」。「ガソリンスタンドじゃないんですよ」というお約束のギャグまで飛び出し、ザ・タイガースの「シー・サイド・バーン」と、続いてザ・スパイダースの「バン・バン・バン」をメロディーで。滝さんが楽しそうに「ゴ〜ゴ〜♪」と合いの手を入れます。そしてGS特集の締めは Wilson

Pickett の「ダンス天国」
やはり、リアルタイムで聴いていた方が多いのか、かなり盛り上がり、最後は観客も一緒に大合唱となりました。

先ほどはギタリストとしての住出さんを楽しませてもらいましたが、今度はシンガーとしての住出を楽しむ番になりました。

シグナル時代のヒット曲（本人はヒットの前に”中”が付くと言っていました）「BGMはため息で」。

サビの部分では決めの手拍子がちゃんと入って、盛り上がりました。



「今度は滝ともはるが輝く番がやってきました」と紹介されて、1部の最後にはかつてベーヤンと二人で歌った「南回帰線」。今日は住出さんとのデュオです。

きんちゃんがこの曲でコンガを叩くのも“HUKUROH”ならではのですね。
大いに盛り上がり、「ありがとう」「サンキュー」の渦の中で1部終了。

2部が始まるまで、しばし食事や飲み物をオーダーしつつ、同席になった方と歓談。

シグナルのファンだとおっしゃる方と話ができましたが、学生の頃にファンになった人たちをずっと追っているもの同士、けっこう話があうものです。

元シグナルの浅見さんのギターを聴きにベーヤンのコンサートに行かれるんだとか。。。なかなか熱い方でした。

場内が暗くなり、2部のスタートです。

2部は「Groovin'」でしっとりと始まりました。

こんなブルージョな曲に滝さんの渋く温かな声がぴったりとはまります。

続く「HAPPY TOGETHER」ではきんちゃんも加えた3人のコーラスを聴かせてくれました。

これもアリスでは聴けない、“HUKUROH”ならではの光景ですよね。

きんちゃん本人は、「コーラスって言ってもア～ウ～言っているだけだけどね」と照れ隠ししていましたが。。。。

“HUKUROH”のMCは実に楽しい。

住出さんの“客を楽しませるツボ”を心得たボケに、滝さんのちょっととぼけたつつこみ。

そして、アリスではあまり観られないきんちゃんのトーク。アリスの10倍はしゃべってくれます。

MCの時間は六本木できんちゃんが経営しているお店「AGATH

A」にいるような気分になるぐらい、くだけた楽しい雰囲気になってしまいます。

「家族の物語」は滝さんが紅白歌合戦への出演を狙ったというウエディング・ソング。父親が娘を嫁に出す心情をじっくりと歌いあげてくれました。滝さんの歌声が心地よく響いてきます。

そして、このライブの目玉のひとつ。きんちゃんが作った新曲のお披露目。なんと住出さんのギターを借りての弾き語りです。

きんちゃんのギター弾き語りは、「ファーストライブ」の「白い夏」以来です。「サンセット」ではギター演奏はしたけど歌っていないし、「エンドレスロード」では喋りだけ。「栄光への脱出」では歌って踊っていたし、それ以降ではピアノで弾き語りでしたから。。。。

きんちゃんのギター弾き語りというのも“HUKUROH”ならではのスタイルになるんでしょうね。

きんちゃんの「LOVE SONG は忘れない」に続く、10年振りの新曲のタイトルは「風に星に君に」。





きんちゃんらしい歌詞とメロディ。そして、きんちゃんの歌声が優しく包んでくれます。

きんちゃんの曲というと、ついつい「ベーやんが歌ったらどうなるかなあ？」って考えてしまうのですが、この曲はきんちゃんの声が合いますね。

きんちゃんがコンガに戻って、もうひとつに新曲「UBUな女」。こちらは住出さんが書いた曲に、滝さんが歌詞をつけています。アップテンポでカッコいい曲に仕上がっていますが、住出さんが「久しぶりに出会った男達の友情を語る歌詞にして」と滝さんに注文したそうですが、できた歌詞のタイトルが「UBUな女」。。。なんて裏話を語ってくれました。

このグループは、タイプが違う滝さんと住出さんのツインボーカルに、住出さんのギタープレイが生み出すサウンドが魅力。

それにきんちゃんのリズムが加わって魅力3倍増になります。

ライブも終盤にさしかかり、シグナル時代の”大”ヒット曲「20歳のめぐり逢い」。

きんちゃんは奥に下がって、住出さんと滝さんのコーラス、サポートキーボードの堺さんで演奏されました。

2部の最後を飾るのが「SWEET HOME CHICAGO」。

滝さんの声はこんな曲にぴったりですね。

そこにきんちゃんのコンガが心地よいリズムを刻み、住出さんのギターがカッコ良かぶってくる。まさにこのユニットの真骨頂というべきサウンドでたたみかけてきます。

曲の途中でメンバー紹介をかねたソロプレイで、きんちゃんは楽しそうにコンガを叩いてました。

そして、盛り上がったまま、アンコールに突入。エリック・クラプトンの「LAYLA」を“HUKUROH”流にアレンジして、じっくりと聴かせてくれました。

さらに、滝さんが「横浜の熱い男」と紹介した米重優哉さんがゲスト出演。彼は滝さんのパラダイスカフェのレギュラーアーティストで、実力派の若手シンガー。

滝さん曰く「我々”HUKUROH”の子供みみたいな存在。いわば子ブクロウ」。。。

「大先輩の前で歌うのは緊張する」と言いながら、「HONKY TONK WOMAN」をド迫力の歌声で披露してくれました。

最後の曲は意外な選曲。

堺正章さんの「街の灯り」で、しっとりと締めくくってくれました。

BLEND解散以来、アリス以外での音楽活動がほとんどなかったきんちゃんが、こうしてステージに立って演奏してくれることは嬉しいですね。

「アリスのきんちゃんなのに」と思われる方も多いと思いますが、たとえばアリスでなくても、ミュージシャンとしてのきんちゃんを観る機会が増えるのは、とっても意義のあることだと思います。

これからの”HUKUROH”の活躍が楽しみです。





飛行船ホームページ 100万アクセス突破 記念メッセージ

AIRSHIP OF
ALICE
Since 2001.7.11

アリスの飛行船

あなたは
1000000
人目の訪問者です



「アリスの飛行船」が再離陸した2001年7月11日からホームページのアクセス数が100万を突破！！
それを記念して、アリスのメンバー3人がそれぞれ船員さんに向けてメッセージを送っていただきました。

100万回アクセス... 驚きです!!
こんなたくさんの方の応援のおかげ
でアリスはここまで来ることができた
んですね! これからは何よりも
アリスのファンの方への感謝です。
みんな... ありがとう!!

Chugai

松

100万アクセス達成

おめでとうお陰で

今日まで頑張りました。

サニキョー!





100万アクセス
の達成が今までの
命かりませんか
どうやらめでたらしい
おめでとう〜う!!





アリスの飛行船 — AIRSHIP OF ALICE



会報No. 67

2011年12月25日発行